VACUUM2012—真空展開催

坂口 文哉^{*1,*2}

Japan Vacuum Show “VACUUM2012”

Fumiya SAKAGUCHI^{*1,*2}

^{*1}The Japan Vacuum Industry Association, Japan Vacuum Show Committee, Chair, Onarimoniyusen BLDG 13F,
3-23-5 Nishi-shinbashi, Minato-ku, Tokyo 105-0003, Japan

^{*2}Canon Anelva Corporation, 5-1 Kurigi 2-chome, Asao-ku, Kawasaki-shi, Kanagawa 215-8550, Japan

(Received July 2, 2012, Accepted July 12, 2012)

10月17日(水)から10月19日(金)までの3日間、東京ビッグサイト東2・3ホールにおいて、真空機器、真空装置の総合展「VACUUM2012—真空展」を開催いたします。

2012年の真空展は、「洗浄総合展」(主催 公益社団法人日本洗浄技能開発協会、日本産業洗浄協議会、日刊工業新聞社)、「土壌・地下水環境展」(主催 社団法人土壌環境センター、日刊工業新聞社)と共同で開催することとなりました。

ご存知のとおり、真空技術は半導体、フラットパネル、電子部品分野をはじめ食品、医療、分析機器や新エネルギー分野など、多くの産業分野に関わる基盤技術です。真空展は、技術開発、製品製造、販売など真空に関わる企業、研究者が毎年多数来場する唯一の真空技術専門の展示会です。図1は昨年の展示会場の様子、図2は昨年の来場者分類です。

今回からは、「洗浄」・「土壌・地下水」と多くの産業に関わる基盤技術が加わることで、今まで以上に新しい発見、多くの出会いが生まれる場となることが期待できます。また、各出展企業より自慢の製品や技術が展示されるものと思われます。大きく変わった真空展をお見逃しのないよう是非ご来場くださいますようお願い申し上げます。

真空展は出展企業による展示だけでなく、併催事業に人気があるのも特徴です。今年も例年通り多くのフォーラム・セミナーが展開されます。昨年おこなわれたセミナーの模様を図3に示します。

毎年注目を集める特別講演では、「21世紀の課題を化学の観点から語る ～環境・食料・エネルギー～」と題して、2010年ノーベル化学賞受賞の根岸英一博士にご講演いただきます。日程は会期2日目の18日(木)、13時から会議棟レセプションホールAとなります。

会期中毎日、午前中に開催される「真空入門講座」は、これから真空産業に関わる方々を対象とした真空技術の基礎的な知識を得るための講座です。講座を受講し、基礎知識を得た上で真空展を見学する事ができるので、毎回満席となる真空初心者にたいへん人気の講座です。また、真空技術者資格認定試験を目指す方にも最適な講座です。

スパッタリング・プラズマプロセスの最新技術に関する研

図1 昨年の展示会場の様子。

究会「真空トピックス」では、「スパッタ・プラズマを利用した先端技術とその基礎」と題して、第一線でご活躍の方々にご講演いただきます。

真空技術を科学の面から掘り下げ、新しい展望をアカデミックに語り合う「真空シンポジウム」では、「日本のモノづくりを支える最新の表面分析技術」をテーマに、産業界、学界から元気のいい方々をお招きしてご講演いただきます。

今話題の新技术と真空産業の接点を模索する「真空フォーラム」では、「次世代自動車とスマートコミュニティ」と題して、公的機関や自動車メーカーの方々をお招きして、環境にやさしい電気自動車、燃料電池車とスマートコミュニティにおける技術的課題や市場動向について論議します。真空産業との接点を見出し、ビジネスチャンスを開拓します。

これらのフォーラム・セミナー以外にも、真空技術に関する研究内容をパネル展示する「研究紹介コーナー」や真空に関わる学生を招いて展示会を案内する「学生ツアー」も好評です。

研究紹介コーナーは、大学・大学院・公的研究機関が真空技術に関わる研究内容をパネルで紹介するコーナーです。

学生ツアーは、学内での研究や今後の就職活動に役立ててもらう事を目的に、大学生を中心とした学生に真空展を紹介する企画です。我々主催者が真空展会場を案内し、各ブースでは説明員が自社の自慢の製品について詳しく説明してくれる段取りになっています。お昼のお弁当やブースでもらう記念品も魅力で、複数回連続で参加した学生がいるほど好評のイベントです。

また展示会場内のワークショップ会場にて、主催者が共同で運営する規格標準合同検討委員会では、「真空と漏れに関

^{*1} 日本真空工業会 展示会委員会 委員長 (〒105-0003 東京都港区西新橋 3-23-5 御成門郵船ビル13F)

^{*2} キヤノンアネルバ株式会社 (〒215-8550 神奈川県川崎市麻生区栗木 2-5-1)

図2 昨年の来場者分類。

図3 昨年のセミナーの様様。

する最新情報」として、真空ポンプの性能測定方法に関するISO規格、JIS原案作成の状況を解説いたします。加えて真空と関係の深い漏れ試験の資格認証の情報と定量漏れ試験の基準として用いられているヘリウム標準リークの最新情報に

ついても報告いたします。

展示会場内の主催者ゾーンのプレゼンスペースでは、主催者である日本真空学会、日本真空工業会の活動を紹介いたします。さらに、同じプレゼンスペースにおいて、昨年実施して大変好評だった真空実験を東京大学生産技術研究所福谷研究室のご協力のもと開催します。真空実験が始まると、必ず黒山の人だかりができる程の人気の企画で、実験が成功するたびに歓声上がる、来場者が楽しめるイベントです。会期中毎日開催されます。

主催者としてしましては、「今後も出展したい展示会」であり、「来場したい展示会」となるよう、真空展の質の向上を図り、魅力ある展示会となるよう努力してまいります。

時代に合わせて変化を続ける「真空展」にご期待いただき、新しく生まれ変わる「真空展」へ、今年もご来場賜りますようお願い申し上げます。

なお、真空展のホームページ (<http://www.nikkan.co.jp/eve/vacuum/>) に最新情報が掲載されますので、こちらもご参照ください。